

ジャス☆ティスが鎮守  
府に着任しました

びちか一党

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので  
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を  
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

半沢直樹最終回に便乗し、おもむろにラストを迎えるジャステイス。

なんの脈絡もなく、大本營に強襲を仕掛ける深海棲艦VS大本營の最終決戦が今始ま  
る。

そして、その衝撃のラストに全提督が涙する（・・・といいなあ）

え？要するにネタが切れたから打ち切るだけだろ？

その通り!!

# 目 次

サイドストーリー 提督達の鎮守府生活

ヨンドイツチマンの鎮守府生活

ジヤステイス×カンコレ | 1

チユートリアル開始☆ジヤステイス艦 | 63

隊爆誕 |

ジヤステイス大☆破 | 15

演習、勝利！勝利！大勝利！（大本営発 | 7

表） |

閑話休題☆爆笑伊良湖カーペット | 23

36

魔法の言葉 OK牧場 | 73

戦場のピアニスト |

鉄の部屋 |

88 81 73

開発開始怒濤の段ボール地獄 |

イタリアから来たヤベー奴 |

大☆団☆円 その1 |

56 50 43



# ジヤスティス×カンコレ

読者の皆、こんにちわあ♪（耳に手を当て野々〇ポーズ）  
あれあれ？元気がないぞ。それじゃあもう一回、こんにちわあ♪  
うん。元気な返事ありがとう♪

え？いきなり現れたお前は誰だ？だつて。

いいねー、ジヤス☆ティスそう言う宇宙ジョーク嫌いじやないぞ☆  
今さら名乗るもおこがましいが、敢えて名乗ろう。

私の名は「宇宙海賊☆ジヤスティス」芸人さ。

世間に一大お笑いブームが吹き荒れた2000年代、一発屋四天王に数えられたお笑  
い芸人さ。

そんな芸人覚えていない？よし、ならとつておきのネタで思い出させちゃうぞ♪☆

——ショートコント コラボ——

「はあーあ、最近仕事すくなつてきたな。」

「昔は、エンタの神様・爆笑レッドカーペット・お笑いメリーゴーランド一杯出演才

「ファーがあつたのになあ」

「最近は、地方営業ばつかりかゝ。あゝあ何かデカイ仕事のオファー来ないかな」「あ、マネージャーから電話だ。何だろう?」

「はい、ジャス☆ティスです」

「え? 仕事の依頼! それもあの艦隊これくしょんとのコラボ企画!!」

「マネージャー本当にありがとうございます。本当にありがとうございます!」「ありがたい・・・ありがタイ・・・」

「タイ王国!!」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダ

「ココ! タイ王国!」(地球儀で指差しつつ)

訳わからんねえだろおう

――――――

どうかな? ジャス☆ティスの事、思い出してくれたかな?

まあ、思い出さなくても強制的に話を進めていくんだけどね☆

え、名前がちーがうだろ、違うだろ?

まあ、あれだ大人の事情という奴ですな☆

――――――  
第1話 初期艦は吹☆雪――――

ということで、やつて参りました。横須賀鎮守府！

いやー、見事なまでに何もないですね☆とりあえず、我がジャス☆ティス司令部を散策してみましょ。

おや？彼処に見えるのは・・居ましたね第1艦娘発☆見。早速取材に行つてみましょ。

そう言うとジャス☆ティスはおもむろに、発見した艦娘に気付かれないようそつと背後に接近する。そして・・

「君のハートにレボ☆リューション!!」

「きやあーーー!!」

「待つて待つて！ジャス☆ティス、深海棲艦じやないから！砲身をこつちに向けないで！」

「し、司令官。もう、脅かさないで下さい」

この娘は吹☆雪。初期艦で選択できる5人のうちの1人さ。他にも叢☆雲、電、五月雨、漣も選べるぞ。

性能的には、どの娘も十分に強いから好きな娘を選ぶといいよ☆

え？じゃあ、どうしてジャス☆ティスは吹雪を選択したかつて？

そんなの簡単さ。艦コレのスタート画面では彼女がセンターを張つてたからね。

あれを見せられたら、選択せざるお得ないよね☆

「改めまして、司令官。ようこそ横須賀鎮守府へ」

「吹☆雪、いきなりで悪いんだけどお願ひしたいことがあるんだ」

「何でしようか？司令官」

「ジャス☆ティスの事は、司令官ではなくジャス☆ティスと呼んでほしいんだ」

「ジャス☆ティスですか・・・」

「そう、ジャス☆ティス。」

「わ、わかりました。でしたら、以後はジャス☆ティスさんと呼ばせて頂きます」

流石吹☆雪、話がわかる。これがあの初期艦だつたら

「ご主人様、調子に乗ると、ぶつとばしますよ♪」

とか

「アンタ……酸素魚雷を食らわせるわよ！」

とか言われてたんだろうなあ。吹☆雪を選んで本当によかつた。

そんな事をジャス☆ティスが考えていると、吹雪が心配そうに此方を伺つていた

「あの、司令・・じやなくてジャス☆ティスさん。何か考えごとですか？」

「大したことじやないさ☆それより自己紹介がまだだつたね」

「自己紹介ですか。それなら大丈夫です。既にお名前は伺っています！」

「それでは、ご要望にお答えして自己紹介をかねたショートコント吹雪」

「あ、あの・・私の話、聞いてましたか？ジャス☆ティスさん」

――ショートコント 吹雪――

「カラオケ屋さんに到着☆今日はアニソン縛りでいつちゃうぞ！」

「まずは、この曲を予約してつと」

「お、始まつた始まつた。届け届け想いよ届け♪ そうあの日、笑顔私の願い全て君と優しい時間へと♪」

「届く・・ごほ♪ ごほ!!」

「あー、この曲やつぱり難易度高いな・・こんな難しい曲ジャス☆ティスが歌えるわけ無いじゃねーか！」

「無いじゃねえか・・ナイジエ、リイーア・・」

「ナイジエリア！」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダダ

「ココ！ナイジエリア！」（地球儀で指差しつつ）

はい、ご静聴ありがとうございました

――――――――――

自己紹介がてらのネタ見せも一段落ついた所で、吹☆雪の反応を伺うジャス☆ティ

ス。うん♪やつぱり、呆然としているね☆

表情から察するに、どうしていいか解らないといったご様子だ。大丈夫♪ジャス☆ティスは、そういった反応には慣れてるんだ。

「今のは、どうだつたかな？」

「・・・あの、こういうとき、どういう反応をすればいいんでしようか」

「笑えばいいと思うよ☆」

と、まあこんな感じで始まつたジャス☆ティスの横須賀鎮守府ライフ。

果たして、ジャス☆ティスのテンションに吹☆雪は付いていいけるのか？

そして、もうコントネタのストック切れを起こした作者の運命は！！

次回「チュー！トリアル開始。ジャス☆ティス艦隊爆誕！！」お楽しみに

次回も、君のハートにレボ☆リューション!!

# チユートリアル開始☆ジャステイス艦隊爆誕

ウォンチュー！君のハートに、レボ☆リューション！

というわけでね、え、今回もですね、え、艦隊コレクションの方と一緒に楽し  
く学んでいきましょう！

まずは、恒例のネタ見せから

——ショートコント 無茶ぶり——

「あ、マネージャーお疲れ様です」

「艦隊コレクションとのコラボ、いい具合ですよ☆」

「相方の吹☆雪、最初はジャス☆ティスのネタ見せに固まつてたんですけど、最近は気を遣つて愛想笑いを浮かべるようになつたんですね☆」

「最初の掴みはOKです。これならまず、10話連載は固いですね」

「え、え！え！10話じゃ少ない？目標は100話連載！」

「ちょ、ちょっと待つてください。そんなの無茶ぶりだにや！」

「無茶ぶりだにや・・ブリダニヤ・・」

「ブリタニア!!」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダ

「ここ！・ブリタニア！」古代地図を指差しつつ

あ、因みにここで言うブリタニアはコー○ギアスの神聖ブリタニア帝国ではなく、古代ローマ帝国が現在のイギリス南部に設置した属州の事をいつているよ☆  
コー○ギアスのブリタニアは、これをもとにしているとか。していないとか。ジャス☆ティスもwikipediaで初めてわかつたよ

「あの、ジャス☆ティスさん。そろそろよろしいでしようか？」

ジャス☆ティス恒例のネタ披露が終わると、遠慮がちに吹☆雪が声をかけてきた。全く何て気遣いが出来るやさしい娘だ☆

これが、あの初期艦だつたら・・・

「司令官さん。読者の方が反応に困っているのです。そういうことはやめた方がいいと思う・・・のです」

と、かなり切れのある火の玉ストレートを放つていたであろう。

「いやーいつも、ネタが終わるまで待たせちゃって悪いね。吹☆雪」

「いえ、構いません！私もやつと、ジャス☆ティスさんのノリに慣れてきました」

「吹☆雪！・ジャス☆ティス嬉しい♪」ということで次のネタですが、え～」

「ジャス☆ティスさん。早速チュー・トリアルに入つて行きましょう」

「え、あの、ネタ見せがまだ・・」

「早くしてください。置いて行っちゃいますよ♪」

「・・・・・」

次のネタを披露しようとするとジャス☆ティスを無視し、問答無用でチュー・トリアルに入つていく吹雪。

おかしい・・第1話ではあんなにジャス☆ティスを気遣つていた娘なのに、段々と扱いが雑になつてきている。これが、反抗期というものなのだろうか？

「ここが、工廠です。艦娘の建造・装備品の製造が出来ます。早速新しい艦娘を建造してみましょう」

吹☆雪の言われるがまま、建造を選択してみると、建造資材投入画面に切り替わる。

フムフム。燃料・弾薬・鋼材・ボーキサイトと別れており、どうやら個別に投入量を決められるようだ。ゴージャスは、戦艦建築レシピを訪ねてみた。

「戦艦ですか。でしたら、400, 100, 600, 30がおすすめです。ただ、資源が少ない初期は全て30で回した方がいいと思いますよ」

吹☆雪のアドバイスをもとに、投入資源を設定する。そうして、完成したレシピを彼女に手渡した。

「このレシピで建造を頼むよ☆」

「了解です。念のためレシピを確認させてもらいますね」

ジャス☆ティス建造レシピ

燃料 400  
弾薬 100  
鋼鉄 600

ボーキサイト 30

「・・本当にこれで宜しいのですか?」

「構わないよ、それで建造しちゃつてくれ」

「解りました・・」

自身の意見を聞いてもらえなかつたのか、少し不満げな表情を見せながらも建造レシピを妖精さんに手渡す吹雪。その背中はどこか寂しそうな雰囲気を漂わせていた。

すまん、吹☆雪よ。ジャス☆ティスにはどうしても、手にいれたい艦娘がいるんだ。

妖精さんにレシピを渡し終えた吹☆雪が小走りにこちらに駆け寄ってきた。

「因みに初期段階で戦艦レシピを回すということは、狙いは金剛さんですか?」

「いや☆違うよ?」

「でしたら、扶桑・山城さん? それとも伊勢・日向さんですか?」

「それも外れ」

「・・・でしたら、何を狙っているのですか？まさか、長門・陸奥さん？」

「戦艦大☆和」

「え・・・」

流石の吹☆雪も虚をつかれたようだ☆それもそうだろう。何せ、戦艦大☆和は維持費が半端じやなくかかる。巷では戦艦版赤城等と揶揄されるほどで到底初心者にお薦めされる戦艦ではない。

だが、ほしいのだ大☆和が。なぜかつて？勿論ネタに困らないからさ

大和を入手すれば「大和市」、「宇宙戦艦大和」、「大和」とネタにつきない。是非とも初期に入手して今後の展開を楽にしなければ☆

「あの、ジャステイスさん・・・」

「どうしたんだい☆」

「あのレシピでは大和建造は100%不可能です」

「ん？今何て？」

「あのレシピで大和建造は不可能です」

はつはつは！最近の吹雪の成長には目を見張る。まさかボケまでマスターするとは、

ここはジャス☆ティスが華麗に突っ込んでアシストしてあげないと

「おいおい吹☆雪、戦艦レシピで戦艦大☆和が建造できないなんて可笑しな事言うねえ。」

「あつ！もしかして大和は宇宙戦艦だから戦艦には該当しないのかな☆」

「大和さんは大型建造からしか入手できないんです」

大型建造？最初期の艦コレしか知らない、ジャス☆ティスに耳慣れぬ言葉が聞こえてきた。

「手っ取り早く説明すると、より大量の資源・開発資材を投入して行う建造の事です。大和さんはその建造限定キヤラなので入手出来ません」

「そ、そんな、そんな馬鹿な!!」

「そこは、バハマでは無いでしようか？」

「あ・・そんなバハマ!!」

なんということでしょう、なけなしの資材を投入して建造したレシピがまさかの大☆和建造不可の欠陥レシピとは・・そんなこと w i k i には一言も書かれていなかつたと  
言うのに。

焦るジャス☆ティスだが、ふと妙案が浮かんできた

「そうだ☆まだ建造開始は押していなかつたはず。今ならまだ資源消費をキヤンセル出

来るはず。」

「そう、まだ助かる・・まだタスカル・・マダガス k r」

「あ、妖精さんから建造が完成したの報告が入りました」

「それと、気を効かせてバーナーを使用してくれたみたいですよ」

「そんな、ばはま・・」

吹☆雪からの報告を受け、なげなしの資材を無駄に消費した事実を突きつけられた  
ジャス☆ティス。

絶望に打ちひしがれながらも、新艦娘の待機する執務室へと歩を進めていく。その足  
取りはどこか暗く重いものであつた。

――――――――――――

えー、それではですね。第2話も無事終了しましので、恒例となりました次回予告の方に入らさせていただきます。といつても、毎回ジャス☆ティスが予告するのもあれなので、今回は吹☆雪さんにお願いしてみましょう。それでは、お願ひします。

わ、私が次回予告ですか？が、頑張ります!!

失意の提督のもとに現れた新艦娘の金剛、彼女の破天荒な性格ぶりに流石のジャス☆  
ティスさんもたじたじのようです。吹雪と金剛が加入した新艦隊でいよいよ海域攻略  
へと出発します！

次回第3話「ジャステイス大☆破」

次回もあなたのハートにレボリューション！です♪

# ジヤスティス大☆破

ウォンチュー！君のハートに、レボ☆リューション！  
というわけでね、え、今回もですね、え、艦隊コレクションの方と一緒に楽し  
く学んでいきましょう！

まずは、恒例のネタ見せから

——ショートコント 電話対応——

「はい、お電話有り難うございます。受付のジヤス☆ティスです」

「はい、はい、はい。課長ですね☆少々お待ちください」

「課長、外線5番にお電話です」

「え、相手方のお名前ですか・・・確か佐藤ほにやらさんです。」

「ほにやらら・・・ホニアラ・・・」

「ホニアラ!!」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダ

「ココ！ホニアラ!!」（地球儀で指差しつつ）

えー解説をするとですね、ホニアラはソロモン諸島の首都になつております。

ソロモン諸島はですね、南太平洋に浮かぶ数百の島の集合体なんですね。

この島のなかには、あのガダルカナル島も含まれており、日本人にとつても実はかなり密接に関わりのある国のですよね。

そして、今回の作品においても恐らくネタとして大車輪の登板をしていただく予定のとても重要な国ですので、覚えておいて損はないともいいますね

—————

戦艦金☆剛彼女が待機している執務室に急ぐ2人。新艦娘の性能についてある程度

の知識を持つておくため、wikiで高速情報収集するジャス☆ティス。

「へー金☆剛つてイギリス生まれの戦艦なんだ☆」

「戦艦ではなく、高速戦艦です」

——高速戦艦——

ステージ序盤では、あまり関係ないが海域を進めていつたり、イベントに参加すると関係する所があるみたいだね☆

育成しておいて損はない艦種みたいだよ。それと高速とはついてるけど比較対象が戦艦内だから他艦種と比較してどこまで速いのか？これが解らない

とまあ、そういうしているちに到着する2人。さてどうしたものか？

—————

実はジャス☆ティイスまだ、金☆剛ネタを考えてないんだよね。wikiを見て艦娘のキヤラを調べた感じだと、どんなくそねたでも

「提督！トツテモ面白イデース♪」

とか

「私の為にネタを用意してくれたの？アリガトウ」

みたいな感じになるだろう。

「それでは、新しい艦娘に会いに行きましょうジャスティイスさん」

「しー☆」

「？」

「これから、ジャス☆ティイスは吹☆雪の初解析の時みたいに後ろからレボ☆リューションするから静かに」

そういうと、ジャス☆ティイスは執務室の扉をわずかに開け中を伺う。

金☆剛は、ソファーに座りティータイム中だ。あの様子なら、背後に回りレボ☆リューションするのは容易いだろう。

音もなく扉を開け部屋に侵入。隣の吹☆雪は形容しがたい表情をしているが、まあ感

嘆しているのだと思つておこう☆抜き足・・差し足・・忍び足・・金☆剛との距離を詰めていく。

距離にして後3歩・・2歩・・1歩・・よし!!

「君n」

「!!化け物デース!」

突然振り返る金剛。そして不本意な形で対面する事となつた2人。

向けられる砲塔、室内に響く35・6cm連想砲の轟音。

倒れるジャス☆ティス。

どうやら、戦艦の主砲を至近距離で食らつたようだ

——ジャステイス大——

破 ☆

「一体何があつたんですか?ジャス☆ティスさん!!」

執務室の轟音を聞き、駆けつけた吹☆雪。彼女が見た物は金☆剛の主砲をもろにくら  
い、あられもない姿で大☆破したジャス☆ティスであつた。

窓ガラスは割れ、机は吹き飛び部屋中が煤だらけ。これだけでも砲撃の破壊力がわか

り知れるものであつた。

「金剛さん、どうして司令官を攻撃したりしたんですか!!」

「エエ! この人が提督うー。どうみても悪役にしか見えなかつたから、深海棲艦だと思つて攻撃しちやつたヨー」

「確かに、姿はちよつと奇抜ですけど、れつきとしたこの基地の提督さんです!」

「ウー・・いくら勘違いとしても、申し訳ないデス。怪我はないですか? 提督う」

「・・・この状態を見て怪我がないように見えるかい☆金剛?」

二人の助けにより、何とか立ち上がるジャス☆ティス。ふと、気がつくと砲撃によりあれだけ破壊された部屋が何事もなかつたように元通りになつていた。  
「流石妖精さんですね。あつという間に部屋が元通りです」

「妖精さん?」

「はい、艦の補給・整備・その他色々なことを妖精さんが行つてくれていてるんですよ  
ヘー☆でもジャス☆ティスの衣装は治つてないんだけど・・」

「妖精さんは女の子なので仕方ありません」

「じゃあ、ジャス☆ティスこの後ずつとこのまま?」

「うーん・・そうだ! ジャス☆ティスさん。ちよつと入渠しててください。その間に直しちゃいます♪」

―――入渠―――

戦闘で傷ついた艦をドック入りさせること。

艦娘のレベルが上がるほど回復完了時間は長くなるから注意だよ☆  
勿論艦娘専用の修理施設なんだけど、どうしてジャス☆ティスが入らないといけない  
のかな？不思議だね☆

余談だけど大体アニメとかだと、お風呂場になつてるので今後のラツキー☆スケベに  
胸が高まるね

――――――――

「あーいい湯だつたー☆」  
「軽空母、龍驤や。独特なシルエットでしょ？でも、艦載機を次々繰り出す、ちやーんと  
した空母なんや。期待してや！」

「・・・どちら様？」

ジャス☆ティスが着替えを済ませ入渠から戻ると、知らない娘が1人増えていた。

吹☆雪も金☆剛もいなかつたので、どこから来たのか直接聞いてみた。

「ええと。キミイ自分で空母レシピ回しといて、それはあかんよ」

空母レシピ？ああ、そういえば大☆和建築不可地雷レシピのついでに、回したような  
回してないような・・・

どうやらこつちはバーナーを使わなかつたので、このタイミングでの着任になつたみたいだ。

「いやー色々あつてすっかり忘れてたよ。宜しく竜☆嬢」

「漢字が違うで！龍嬢や」

「ごめん、ごめん因みに建造記念にゴー☆ジャスのネタ披露してもいいかな？」  
「うちのために!? わはあくめつちや嬉しいで、ありがとうなあ！」

ヤバい☆この娘、乗りがいい。これは初の満点大笑いの可能性が高い。張り切つて  
いつちやうぞー

——ショートコント 龍嬢——

「龍嬢！ 龍嬢!! お前胸が・・・」

「ちょいまち」

—————

ジャス☆ティス会心のネタが、龍☆嬢によつて突如打ち切られる。全く、これからナ  
イジエリアにつなげようと思つていた矢先の出来事である。

「どうしたんだい龍☆嬢」

「キミイ、それ絶対うちの胸が無いことネタにするつもりやろ!!」

「あ、ネタバレはN☆G」

「馬鹿！アホ！オタンコナス！馬に蹴られてしんじまえー」

突如として、泣きながら走り去っていく龍嬢。そして残されるジャス☆ティス。  
ジャス☆ティスの心境は、ネタを先に言われてしまった無念さで曇り空だつた  
ましよう。それでは、どうぞ☆

英國で生まれた帰国子女の金剛デース。

エロシケオネガイシマース!!

提督うの不用意なネタで、提督に対する心証はunderground二。コノ先、龍嬢との関係はどうなつてしまふのか、とても心配デース。サラニ、いよいよ他提督うとの演習がスタートシマース！

ワズカ3隻の戦力で錦を飾る事が出来るのか?

次回第4話「演習、勝利！勝利！大勝利！」（大本営発表）

# 演習、勝利！勝利！大勝利！（大本營発表）

ウォンチュー！君のハートに、レボ☆リューション！  
 というわけでね、え、今回もですね、え、艦隊コレクションの方と一緒に楽し  
 く学んでいきましょう！

まずは、恒例のネタ見せから

――ショートコント 風物詩――

「いやー☆毎日毎日暑い日が続くなー」

「こんな日はやつぱりプールで泳ぎたいなー」

「そういえば、水泳といつたらそろそろあの曲の時期だなー」

「え、あの曲じや解らない？しようがないなー☆じやあ、さわりだけ歌っちゃうよー」

「夢じやない♪あれもこれも♪ららら、ららららら♪らららーーー（長いので以下略）」

「そして輝くウルトラソウル♪・・・ソウル・・・」

「ソウル!!」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダ

「ココ→ソウル！」（地球儀で指差しつつ）

ということですね、まあ解説することもないくらいベタなネタですが一応解説のほうに入ります。

世界水泳開催の度に流れるこの曲。2003年○島康介選手が平泳ぎ世界記録樹立のときに流れ、ガツツポーズからの「うるとらソウル！はい！」で印象深い曲ですね。

世界水泳と言うと完璧にこの曲のイメージですが2005, 2007, 2009年では別の曲が使用されています。気になるかたはwikiで検索、検索う♪

甘味処 伊良湖

「ん→♪メツチヤ美味しいで、ありがとうなあ！」

「これで、機嫌を直してくれるなら、安いもんさ☆」

――ジャス☆ティスのお財布小☆破――

遡ること1時間前

やつとの事で龍嬢に追い付いたジャス☆ティス、ひたすら謝り倒し、事なきを得た僕は、伊良湖パフェ食べ放題で手を打つてもらえることになつた。

当初は、3杯位が関の山だろう。とたかをくくつていたけど・・・

現在

「パフェのお代わりいってみよう♪」

「13杯目・・・」

見た目と相反する食欲にさすがに面喰らう、龍☆嬢が14杯目の伊良湖パフェに手をつける矢先、何処からともなく吹☆雪の声が聞こえてきた

「やつと見つけました。ジャス☆ティイスさん」

「吹☆雪、それに金☆剛何処にいってたんだい？随分探したんだよ」

「演習にいってたデース！」

「ぼろ負けしちゃいました。申し訳ありません」

「お疲れ様」

――― 演習―――

艦隊コレクション唯一のPVP要素。

といつても、相手を選んだら後はひたすら見もるだけなんだけどね☆  
因みに、提督の階級が高いほど。また、相手艦娘のLVが高いほど高経験値入手で

来るから、積極的に下剋上を目指していく。

提督によつては、高レベル非戦闘艦編成（間宮、伊良湖、○ゆ）や、装備無し艦娘編成を組んでくれてる優しい方も多いみたいだね☆

「此方が本日の演習結果です。」

渡された演習レポートに目を落とすジヤス☆ティイス

艦隊名	ジヤス☆テイス	艦隊目	きぐちカツタ一
駆逐艦	吹雪	L V 1	戦艦
金剛	L V 1	大破	武藏改二
駆逐艦	大破	大破	L V 1 5 5
重巡	戦艦	戦艦	霧島改二
駆逐艦	鳥海改二	鳥海改二	L V 1 5 5
駆逐艦	望月	望月	L V 1 5 5
駆逐艦	卷雲改二	卷雲改二	L V 1 5 5
駆逐艦	沖波改二	沖波改二	L V 1 5 5

結果 D敗北

「きぐちくん・・」

「お知り合いの方ですか?」

「多分人違いだね☆そういえば、演習は1日10戦できるんだっけ?」

「提督う♪その通りデース」

「よーし☆ならどんどん演習だ! いくぞ吹☆雪、金☆剛、龍☆嬢」

「あつかーん! 司令官せめて最後の伊良湖パフエ食べ終わるまで待つてくれへん?」

――――――

### 演習1 戰目

「相手は○ゆ、一隻デース囮め囮め」

「吹雪なにチンタラやつてるん!」

「爆雷装備持つてませーん」

相手艦隊は○ゆ一隻のボーナス編成のはずだったが、対潜攻撃艦が吹雪のみ。その吹

雪も初期装備なため決定打が得られずC敗北

### 演習2 戰目

「O h・・大和、武藏、陸奥、長門。錚々たるメンツデース」

「うちに任しどきー。艦載機のみんなあー、お仕事お仕事ーー!」

「あつかーん！」

龍☆嬢の発艦させた先制爆撃機は、全滅。相手艦隊に1mmもダメージを与えられず完敗

続く演習3、4戦目も順調に負けていき迎えた最終戦、艦隊の士気は地の底まで落ちていた

「もう、お家に帰りたいデース」

「きみい、今日はこの辺で止めにせえへん？あと、明日有給休暇どつてもええかー？」

「ダメです☆」

「あと、1戦で最後です。頑張りましよう」

吹☆雪以外の艦娘は、文句たらたら。さて、どうしたものか？

このままの士気で最終戦を戦つても敗北は目に見えていた。そこで、ジャス☆ティイスは人参を与えることにした。

「よし☆わかつた。最後の演習B勝利以上で全員に伊良湖パフェを奢ろう」

「本当ですか？ジャス☆ティイスさん！」

「食べ放題？勿論食べ放題やろ？」

「お一人様一個限定です☆」

「がぜんやる気が出でてきたネ。提督う最後の相手を早く選んで h u r r y u p!」  
さて、どうしたものか?

いつた手前最後の演習は勝たせてあげたいが、中々レベル20以下かつ3隻以下の提督がいない。

演習相手を切り替えていく中でふと、とある艦隊に目が止まる。

艦隊名 アンボーワイズ

戦艦 山城 L v 1 0

戦艦 扶桑 L v 1 0

駆逐艦 吹雪 L v 1 5

これなら行けそうである。編成は戦艦二隻と厄介だが平均Lvは此方がうえだ。

艦隊名が引っ掛かるがまあ、気のせいだろう☆

演習10 戰目

偵察機の回収を終えた龍☆嬢が、妖精さんから敵布陣状況を聞いている

「なんやそれ！」

「何かわかつたデース？」

「それがこの子達が言うには、あれは山城と扶桑じやない。艦装は同じだけど別人だつていうんよ」

「別人ですか」

「それと、敵の吹雪が死んだような目をしてるらしいで」

「意味が解らないデース」

まあ、悩んでいても仕方がない☆とりあえず、行き足を進め敵艦との遭遇に備える  
敵影が現れ戦闘体勢に入る吹☆雪達

「さあ仕切るで！ 攻撃隊、発進！」

先ずは龍☆嬢の開幕爆撃で、先手をとる。どうやら、敵艦隊にまともな対空装備はないらしく撃墜0で爆撃機が帰艦する。

「や～ま～し～ろ～なにやつてんだよ」

「いつたー!! あ～不幸だわ～」

恐らくは、爆撃を食らったであろう山城の声が聞こえてきた。

「山城さんつてこんな声でしたつけ？」

「何か呪文みたいな声が聞こえてくるデース！」

耳を済ますと微かに何か聞こえてくる、そしてその声はどんどん近づいてきた

「じゃんがじゃんが♪じゃんがじゃんが♪」

「じゃんがじゃんが♪じゃんがじゃんが♪」

「じゃんがじゃんが♪じゃんがじゃんが♪」

敵部隊が目視出来る位置まで現れたとき、龍☆嬢が偵察機から得た情報が理解でき  
た。

艦装は扶桑姉妹だが別人確かにその通りである。

あれは、どこからどうみても・・・

「あの、ジャス☆ティスさん。あの方達どこからどうみても男ですよね」

艦隊名を見た瞬間まさかと思ったが、どうやら感が当たつたらしい。

しかし、なぜ艦娘？として参戦しているのか？

「や～ま～し～ろ～何でこんな仕事受けたんだよ～」

「普通コラボつて言つたら、提督として参加すると思うじゃん。艦娘として参戦するな  
ら受けてないよー」

「何で艦装つてこんな重いの～死んじやうよ～」

向こうの吹雪がかわいそうになってきた。

確かにあのなかにいたら死んだような目になるのもうなずける。

「HEY提督う。もう勝負決めにいつてもいいデース?」

「そうだね☆向こうの吹雪も可哀想だし、とつとと終わらせよう☆」

「B u r n i n g · · ·」

「ちよつと待つたー」

「何デース? 命乞いは聞きませんよ?」

「本当に攻撃していいの? 本当に?」

意味が解らないという顔で此方を見てくる金☆剛、そんな顔されてもジャス☆ティスにも彼らのいった意味が解らない。

「今のアンボーワーズは山城、扶桑役なんだよ。と言うことば、大破グラも当然···  
!!」

「こ」に来てようやく、彼らの言わんとしてることが理解できた。

このまま攻撃を続ければ当然、中・大破状態になる。そしてそのグラは当然山城・扶桑仕様。

想像しただけで、悪寒が走る。

吹☆雪達もそれを理解らしい。これで迂闊に攻撃でなくなってしまった。

「よし、今だけ行けやましろ」

「えー？ 扶桑が行けよ」

「やだよ、やましろがいけよ」

「扶桑がいけよ」

「やましろ」

「扶桑」（じやれあう二人）

「あーー、はい。じゃんがじゃんが（長いから以下略）」

突然ネタみせを始めるアンボーワーズ。しかしこれはチャンスである。  
あと、少し。後少しすれば・・・

「提督う！」

「ジャス☆テイスさん！」

辺りは完全に暗くなつた。あの二人はまだネタを披露しているようだ。  
絶好の好機

我、夜戦に突入す！

この、暗さならまず奴等の大☆破グラが目に写ることはない。  
一気に決めにいく

「お願ひ！ 当たつてください！」

「全砲門！ Fire！」

全弾命中

「痛い痛い痛い！」

山城？ 大☆破

「いつたーい。もう無理！」

扶桑？ 大☆破

演習結果 A 勝利

攻撃を受け氣絶した山城？ 扶桑？ を曳船の要領で引きずつていく相手側吹雪。  
敵ながら同情に絶えない。

「お疲れ様でした。ジャス☆ティスさん」

「いやつたあー！！やつたでえ！ うち大活躍や！ 褒めて褒めてえー！」

「疲れたデース。早く帰つてティータイムデス♪」

「お疲れ様☆じやあ帰つて約束通り伊良湖パフェを食べようか」

3人分の伊良湖パフェ、お財布には厳しいが彼女達の笑顔が見られれば安いもんさ☆

――――――

はい、というわけでですね。無事今回も終了することができました。  
ここで、今回の次回予告のほうにですね、えゝ入らさせていただきます。  
今回は龍嬢さんにお願いしましょ☆

うちが次回予告！いきなりはちょっと緊張するな

演習最終戦で見事アンボーワーズ艦隊を打ち破り勝利した、うち達。

資材も溜まり、回した戦艦レンシピで入手した山城（本物）・扶桑（本物）姉妹。ついで  
に残った資源で建造した不知火。遂に完璧な第1艦隊編成完了や！

これを記念して、何か提督が歓迎ネタ披露会をするらしいで  
知らんけど

次回第5話「閑話休題、爆笑伊良湖力ペツト」

次回も見ていつて貰えるとメツチヤ嬉しいわー

## 閑話休題☆爆笑伊良湖カーペット

「妖精さん、仕掛けの具合はどんな感じかな☆」

グツ！（親指をつきだしバツチリのポーズ）

「いいねー☆頼もしいねー☆」

甘味処伊良湖

ジャス☆ティスは、妖精さん達と一緒に艦娘歓迎会の会場設営に勤しんでいた。

ようやく、結成できたジャス☆ティス第1艦隊のメンバー、吹☆雪、金☆剛、龍☆嬢、

山☆城（本物）、扶☆桑（本物）、不知火さんの歓迎会準備である。

料理は、伊良湖さんに頼んで特別上等なものを用意してもらつた。勿論、伊良湖パ

フェもだ。

でもまだ足りない。歓迎会といつたら会場、料理だけじやない。

やはり、一番のメインは出し物だろう。といつても、主役の彼女達にそれをやらせるわけにはいかない。ならば、ジャス☆ティスが一肌脱がなくては  
「このカーペットの移動速度もう少しはやくできる？」

グツ（オーケーのポーズ）

「いいねー丁度いいスピードだー」

「あ、次いでに床が観音開きになつて、落下する仕掛けも追加できない」

グツ（両腕をクロスさせ?）

「ダメかー☆」

ふと時計を見上げるジャステイス。開始時刻まで30分を切っていた  
急いでもうひとつ仕掛けの作動確認をする。

ジャステイスが6つ分の満点大笑い札を掲げる

「満点大笑いです」

「大笑いです」

「中笑いです」

「小笑いです・・」

採点の仕掛けも完璧☆流石妖精さん。これで準備万端いつでもどんとこい。な状態  
が完成した。

「いやつたー！美味しそうな料理が沢山やー。伊良湖パフェもあるし最高やわー」  
「ああ、不知火さん。まだ料理を食べちゃダメですよ！ジャス☆ティスさんの乾杯の音  
頭を待たないと・・金剛さんもです！」

「不知火に何か落ち度でも?」

「こういうのは早い者勝ちデース♪」

「楽しそうな艦隊ね、山城」

「・・・」

どうやら、艦娘達は各々好き勝手始めたようだ。一心不乱に料理を食べる金☆剛  
不知火さん、そしてわんこパフェを開催している龍嬢。それらを遠巻きに見ている扶桑姉妹

まあ、こういうのもありだろう。ジャス☆ティスも堅苦しいのは好きじゃない☆

「ジャス☆ティスさんどうぞ♪」

「ありがとうございます♪」

「お礼を言うのは私達の方です、こんな会を開いていただきありがとうございます。」

本当に、本当に何て素直な娘なんだろ。

吹雪もそうだが他の娘達も皆素直で実直だ。

一人、いや二人、天真☆爛漫・破天荒が要るがまあ、そう、そうねえ・・

宴もたけなわになつたところで、いよいよ本日のメインディッシュ☆爆笑☆伊良湖カーペットの開催だ

「はい、みんなー☆ジャスティスにちゅうもーく」

「これから、爆笑☆伊良湖カーペットはーじまーるよー☆」

「何やそれ？」

「面白そうね山城」

「不幸だわ」

妖精さんにあらかじめ用意させていた、木札を艦娘達に配布させる。

「各々に4つの木札が行き渡つたかなー☆」

「これどうやつて使うデース」

「・・・恐らく投擲用の道具でしよう」

「不知火さん、それは武器ではありません☆ジャステイスに向けて投げないでください

☆

「不知火に何か落ち度でも?」

とまあ、不知火の奇行は置いておき爆笑☆伊良湖カーペットのルールを説明していく、ジャス☆ティス

ルール概要

1 ジャス☆ティスの新艦娘ネタ4作品（扶桑姉妹は1セット）を木札で評価しても  
らう

2 木札は手で掲げるだけで不思議なちからで採点できるので投げない（特に不知

火)

3 途中で飽きたからといって帰らない（特に山城）ジャステイスが落ち込みます  
 4 合いの手はいりません（特に金剛）本番中はお静かに \*笑いは別だよ☆

ということで、早速いってみよう☆

——コント 金剛——

「いやー、遂にジャステイス鎮守府にも戦艦が来るのかー」

「誰だろうなー？武藏かな？大和かな？それともビスマルクかな」

「あ、金剛かー」

「こんごうかー・・・コンゴうかー・・・」

「コンゴ!!」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダ

「ココ！コンゴ!!」（地球儀で指差しつつ）

—————

さあ、一発めのネタが終わりました果たして、ジャステイス選手の評価はー？（司会

進行兼コメントター兼ジャス☆ティス）

金☆剛：小笑い

龍☆嬢：中笑い

吹☆雪：満点大笑い

不知火：中笑い

山☆城：札無し

扶☆桑：満点大笑い

さあ、平均は中笑いです☆

それでは早速、採点理由を聞いてみましょう☆先ずは評価無しの扶桑さん☆  
「早く帰りたいわ。山城姉様」

・・・素直な感想ありがとうございます☆早くもジャス☆ティス泣きそうです  
続きまして、満点大笑いの吹☆雪さん

「とても面白かったです。」

ありがとう☆具体的には？

「えーと・・・とにかくとも面白かったです」

有り難うございます。扶☆桑とは別の意味で泣きそうです。

最後に金☆剛さん

自身のネタでしたが小笑いでしたね☆

「H e y提督う金剛からのコンゴはちよつと安直すぎるよー」

「まず、金剛だしネタ考えるのも面倒だからコンゴでいいかつていう考えがバレバレ  
デース」

「それに、あつ提督うまだ解説は終わってないよ。なぜ逃げるデース!?」

ジャステイス主催の爆笑☆伊良湖カーペット、当初は4作品のネタを披露する予定

だつた。

しかし、初回から満墨ホームランをくらい心身共に疲労困憊のジャス☆ティスにその余力は残されていなかつた。

以後、爆笑☆伊良湖カーペットが再び開かれるることはなかつたという。

――――――――――

えつと、今回ジャス☆ティスさんはショツクで寝込んでおります。今回は吹雪が進行させていただきますね。今回の次回予告は不知火さん、お願ひします

不知火です。ご指導ご鞭撻、よろしくです。

装備品を充実させるため、アイテム開発に勤しむジャス☆ティス。しかし、出てくるのはゴミ、ゴミ、ゴミ。ジャス☆ティスお目当ての装備が出てくるのはいつになるのか。

次回第6話 「怒濤の段ボール地獄」

不知火に何か落ち度でも？

# 開発開始怒涛の段ボール地獄

「山☆城、扶☆桑待つてくれー」

悪夢伊良湖カーペット、金☆剛ダメ出し事件から立ち直つたジヤステイス。  
まだネタ見せをしていない扶桑姉妹を発見し、有無を言わさずネタにはいる

——ショートコント 扶桑姉妹——

「いやーあの扶桑姉妹を入手し、我が艦隊はまた戦力増強」

「これなら、いつ海域攻略しても大丈夫だな☆」

「そういえば、扶桑姉妹といつたら、あのセリフで有名だね」

「え？ そのセリフとは、何だ？ だつて」

「扶桑姉妹といつたらあれしかないでしょ。」

「そう、不幸だわ。このセリフだよね」

「不幸だわ・・・ふこオダワ・・・」

「オタワ!!」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダ

「ココ！ オタワ!!」（地球儀で指差しつつ）

「どう☆どう☆この改心のネタ！」

「とても面白かったです。私達の為に有り難うござります提督」

「不幸だわ」

扶桑と山城、姿形は似ていれど、反応は真逆。てじ〇ーにや兄弟、ザ・たつ〇、おす〇と〇ーこも兄弟ならこんな感じなのかな？等と思いにふけつていると不意に不知火さんの声が聞こえてきた。

「ここにいましたか司令」

「不知火さん」

「前々から思っていたのですが、何故私だけさん付けなのでしょうか？」

「まあまあ細かいことは気にしない☆」

理由は一目瞭然である。

駆逐艦とは思えないあの鋭すぎる眼光だ。着任当初の言動から天然な娘であることは確認できた。恐らく呼び捨ても受け入れてくれるだろう。

だが、あの眼光がそれを踏みとどまらせせるのだ。正に蛇に睨まれたカエル、いや不知

火に睨まれたジャス☆ティスになつてしまふのだ

しかし、そんなこと口が裂けても言えない。

「それより、何かあつたのかな☆」

「そうでした、装備アイテムの開発が終了ましたのでご報告に来ました。」

「それはいいね、でどんな装備が出来上がつたの」

「段ボールです」

「・・・」

「なんでしょうか。・・・不知火に落ち度でも?」

―――開発―――

各種資源と開発資材を消費して、装備品を作成することだよ☆

開発失敗の場合、開発資材は返却されるけど資材は返却されないんだ。その代わりに段ボール（失敗ペンギン）が貰えるよ。やつたね☆

どうでもいい疑問だけど、資材の投入量が多くても少なくとも常に段ボールが1個なのは何故だろう。資材を消費（開発失敗）して段ボールが生成されるのだから、投入資

材が多いほど段ボールが増えていつてもおかしくないのにね。

――――――――

「まあ、しようがないさ☆1発で成功するのは難しいよ、2、3回チャレンジしていこう」  
「13連続失敗です」

「・・・因みに不知火さんは何を開発しようとしたのかな?」  
「46cm三連装砲です。」

「不知火さんつて艦種は戦艦だつけ・・」

「不知火に落ち度でも?」

――執務室――

不知火の一報を聞き戻つたジャス☆テイス。彼目にしたのは、うず高く積まれたダンボール群だった。足の踏み場もないほどに、床に散らばり散乱された失敗ペンギンからもことの悲惨さが伺えた。

「そんな、大☆和チャレンジの為に貯めた資源が」

「ジャス☆テイスさん、止めることができず、すみません」

「きみい何時までも、くよくよしてたらあかんよ。」

「ん☆」

ふと、龍☆嬢の艦載機が流星改であることに気付いた  
「そんな、艦載機あつたつけ」

「こ、これは・・・」

「何回挑戦したのかな」

「し、不知火よりは全然少ないので！」

「龍嬢は私より20回少なく、金剛の約2倍挑戦しました」

「金☆剛お前もか・・」

「デース！30回くらい挑戦しましタ。お陰で41cm連装砲がいっぱいデース」

早速金剛の装備を確認する

1スロ	41cm連装砲
2スロ	41cm連装砲
3スロ	徹甲弾

「・・・龍嬢」

「ええと。キミイ、あんまりさわんで！」

1スロ流星改

2スロ流星改

3スロ流星改

案の定、龍嬢の装備も変更されていた。

・・・教えてくれ吹☆雪、ジャス☆ティスはあと何日資源を貯めればいい。あのペンギンさん達はなにも答えてくれない

「ジャス☆ティスさん本当にごめんなさい」

「吹☆雪に罪はないさ。気が付かなかつたジャス☆ティスの責任さ☆」

「私も・・5回くらいチャレンジしちゃいました」

「吹☆雪お前もか」

ジャス☆ティスの大和チャレンジ計画は落とをたてて崩れつていった。

この後、ジャス☆ティス司令部では開発禁止令が施行されたのは言うまでもない。

――――――――――――――――――――

Buon Giorno！ザラ級重巡の三番艦、ポーラです。何にでも挑戦し

たいお年頃。頑張ります。

今回はポーラが予告を担当しちゃいます。

へ？いつドロップしたか？

イベントに参加した描写なんてなかつた？ですかあ、そこら辺は次回をお楽しみください。きっと提督が説明してくれるはずですう、それより、予告ですが何を言うのか忘れちやいました。

とりあえず、飲みましょう♪ というわけで、かんぱい♪

次回「イタリアから来たヤベーやつ」  
ザーラ姉さま大丈夫う、ポーラ飲んでませんつて。

# イタリアから来たヤベー奴

ウォンチュー！君のハートに、レボ☆リューション！  
というわけでね、え、今回もですね、え、艦隊コレクションの方と一緒に楽し  
く学んでいきましょう！

まずは、恒例のネタ見せから

――ショートコント pola――

「あ、マネージャーお疲れ様です☆」

「ようやく、うちの艦隊もそれらしくなつてきましたよ」

「頑張り屋の吹☆雪、航空要員の龍☆嬢、紅茶大好き金☆剛。そして火力要員の戦艦扶桑  
姉妹に不知火、向かうところ敵なしですね」

「え？新しく加入したあの娘はどうなんだ？ですか・・・」

「んー、pol a、どうでしよう？今のところ何とも言えません」

「pol a、んーどう・・・ぼーら、んーどお・・・」「  
「ポーランド！」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダダ

「ココ！ポーランド!!」（地球儀で指差しつつ）  
ということですね。えー解説の方に入つていきたいと思います。

今回登場するポーラ。2017年のローソンコラボ最高でしたね。ジャス☆ティスのすんでいるところは糞田舎なこともあります。2つもタペストリーをゲットできました。ポーラと言えば、酒。酒と言えばポーラのイメージがすっかりついてしまいました。清楚で可憐な見た目からは想像できない、アル中キヤラ。そのギャップから一気に人気になり火がついたポーラ。

5W1Hどんなときでもワインが友達。そして、時報・戦闘全てのボイスがとてもかわいい。

この娘が何故こんなキヤラになつたのか、その基になつたエピソードを今回はですね、学んでいきましょう☆

――ポーラエピソード――

マタパン岬沖海戦でイギリスの艦により救助されたポーラの乗組員の多くが酩酊状態だつたという。

雷撃機による雷撃を受け、ポーラの乗組員の多くは沈没すると思い込んで海に飛び込

んだ。

しかし沈まなかつたため艦に戻り、濡れた服を脱ぎ、冷えた体を温めるために艦に積まれていた酒を呑んでいたのだつた。

——艦これ w i k i より抜粋——

なるほど☆キヤラ付けにも納得のエピソードですね。

因みに、ジャス☆ティスは、ポーラ大好きですが持つてません☆

艦隊熟練度が足りなくイベントE—5のボスマスを突破できず、無念のリタイア。その後、ポーラボイス動画を視聴し激しく後悔。早く建造可能艦としてきてほしいですね。

ということで、今回はこの辺にして本編入つていきましょう☆

え？ ただ、ポーラについて語つただけで、豆知識要素がひとつもない？  
こんな言葉をしつっていますか？

細かいことは気にしない☆

?? 本当は、もつともっとポーラの魅力について語りたかつたですが本編にたどり着く前に、とんでもない文字数となつたため圧縮

「ザラ級重巡洋艦の三番艦、ポーラです。皆さん、覚えてくださいね。」

「何だこれは……たまげたなあ☆」

大型建造が可能となり、初の大☆和チャレンジに挑戦した。建造結果はご覧の通り、イタリア重巡ゲットだぜ。

\* 実際の大型建造で pola は 100% 建造されないよ☆

この物語はフィクションなので、「建造から pola 出るのかーよし回すぞ！」とか、「建造で pola とか、こいつ艦これエアプ勢じやん・・」とか思わないよう。ジャス☆ティスとの約束だよ☆

「やりましたね。ジャス☆ティスさん、初の海外艦入手です。」

「嫌みか!! K I S A M A」

「金剛さん。キヤラがかわってます・・」

吹☆雪、金☆剛のやり取りを傍目にして早速 wiki で情報収集を開始する。

各能力は、他重巡と遜色なし。速力は高速で砲撃タイプの重巡。

なるほど☆一通りの情報がわかつたところで、早速演習に出撃することにした。

「敵艦、発見したでー」

「え、敵ですか？ どこどこ？ ……あつ、ほんとだ。たいへん。砲撃戦準備ですう

「ええー・・」

龍☆嬢の彩雲が演習艦隊を発見。すぐさま戦闘陣形を組み攻撃に入るが・  
「H e y ! ポーラ。射線上に立たれると攻撃できないよ！」

「あつかーん！この子、戦闘中に飲酒しとるでー！」

「ザ～ラ姉さま大丈夫う、ポーラ飲んでませんつて～。おお、なあんだ提督う。」

「あの、私はざらさんでも、提督さんでもありませんが・・・」

「ちよつと、ポーラ！扶桑姉さまにそんなにべたべたくつつかないで」

「あ、ざ～ら姉さま。こつちが本物でしたー！」

「不知火です」

そんなやり取りの間に、敵艦が発射した魚雷の雷跡が迫っていた

「ポーラさん、そつちに魚雷が行きました。避けてください」

「ううう痛すぎですう！ 飲まないとやつてられない！……ひっく、熱くなつてきたあ～。」

吹☆雪の注意も虚しく。ポーラが大☆破したのだが・・

「提督がふたり～。ちよつとだけ呑んじやつたあ～。服が邪魔あ～。」

「H e y ! 吹雪、あの子を止めるで～ス」

「きみい、こんなところでそれはあかんよ！」

正に、演習どころではない大☆惨☆事であつた。結局、演習は相手方の提督のご厚意により、雨天?ノーゲームとなり、基地に帰投するジャス☆ティス イタリアから来たヤベー奴の実態を目の当たりにし、開いた口が塞がらないジャス☆ティスであつた。

—————  
と  
い  
う  
こ  
と  
で、  
次  
回  
予  
告  
行  
つ  
て  
み  
よ  
ー  
☆

次回は最終話ということで、今回はジャス☆ティスがいつちやうよー突如、横須賀鎮守府に鳴り響く空襲警報。

大本営発表による敵深海棲姫達による本拠地強襲。

前代未聞の未曾有にジャス☆ティス達提督の最後の戦いが始まる

次回最終話 「大☆団☆円」

え？突然過ぎないか？

よく言うでしょ。「恋も人生も何の前ぶりもなく終わりは突然やつてくる」つてね☆

# 大☆団☆円 その1

ウォンチュー！君のハートに、レボ☆リューション！  
というわけでね、え、今回もですね、え、艦隊コレクションの方と一緒に楽し  
く学んでいきましょう！

まずは、恒例のネタ見せから

―――ショートコント 最終話―――

「いよいよ、最終話かー☆」

「思い返せばこの物語様々なことがあつたなー」

「第1話でいきなり、規約に引っ掛かつてイエローカードをもらい  
続く第2ではタグにオリ主を入れなさいと警告をもらい・・・」

「うん☆録な思い出がから、この辺で回想はやめよう  
「でも本当に終わっちゃうんだなー」

「あー、ラストかー」

「アーラストカー・・・アーラスカー・・・  
「アラスカ!!」

「ソーレツ☆」ダダダダダダダダ

「ココ！アラスカ！」（地球儀で指差しつつ）

ということですね。えー解説の方に入つていきたいと思います。

次回がラストの半沢直樹。今週も最高でしたね☆

特に黒崎と半沢の最強タッグ。

そして、ラストの大和田・箕部・中野渡のボスラッシュー3人に「1000倍返しだ!!」

には痺れました

ところで、ふと思つたんですが半沢1期に出ていた半沢直樹の息子はどこに行つたんですかね？

ジャステイスが見た限り、2期から一切登場しなかつたんですが。  
え？ アラスカの解説？

ありません☆

実はこのネタ作成経緯が

1；昨日半沢を見る

2；感動と共に「あーラストかーと悲しい気持ちに」

3；「あーらすとかーとしみじみ」→「ん？アラスカ!!」と突然の閃き

4；「ネタは熱いうちに書け！」の勢いで作成

の為全くアラスカについて勉強していませんでした。  
誠に御免なさい。そして、おもむろに本編に入ります

――――――――――――――――――――

「今日もいい天気♪」

横須賀鎮守府「ジャステイス基地」近郊海岸。

毎朝の日課である海岸線の散歩を1人楽しむジャステイス。

昨日の台風から一転。本日はお日柄もよく絶好の散歩日和であつた。

波も穏やかで、肌に感じる風は心地よい。

昨日の嵐は何だつたのか?と思われるほど景色はいつもの見慣れた光景に変貌して  
いた。

唯一、そう唯一違う点と言えば空一面に「艦載機鳥白」通称「たこ焼き」が飛んでい  
るくらいである

その「たこ焼き」が1機、おもむろにジャステイス直上に急降下爆撃を仕掛ける  
「ん☆たこ焼き♪」

ジャステイス大☆破

ジャス☆ティス直上に突如出現した爆撃機  
投下される100tクラスの爆弾

響く爆発音と目が眩むほどの閃光。海岸線に轟く閃光。そして無惨に大破したジャス☆テイス。

「きみいー！この緊急事態にどこほつつき歩いとるん!!」

騒ぎを聞き付けた「龍☆驤」が走りよってくる。

既に衣装の修復が済んでいるジャステイスは「龍☆驤」の言葉の意味がわからず聞き返す

「緊急事態？」

「深海棲艦が大本営に一斉攻撃を仕掛けてきたんよ！」

「勿論大本営も戦力を蓄えてんけど、急な大物コラボ（詳しくは、「鉄の部屋」をんでね  
☆）

の影響で戦力分散。数に押されて制空権は御覧の有り様や！」

「はえー☆ちよつといきなり過ぎない」

前話までは新戦力「ポーラ」と「キヤツヤキヤウフフ」していたのに、いきなりの深海勢との最終決戦。本当にいきなりだ。

今的心境を例えるなら、本日も特に変わったこともなく定時退社5分前。

帰り支度をしていたら急に後輩がとんでもない爆弾を持ってきて、結局会社で一泊することになつたあの時に似ているだろう。

「どうしてこうなつたか誰か説明お願ひ」

その間に、説明役をかつて出る艦娘が1人現れる

「不知火です」

「やつぱり君か☆嫌な予感しかしないけど説明お願ひ」

「一言で説明するなら、ネタ切れによる打ちきりです」

「本当に一言で纏めちやつたね☆」

「詳しく解説すると、ネタのストックが少ないにも関わらず風呂敷を広げすぎた投稿者の計画性のなさもこの打ちきり原因のひとつ」

「・・・もうよい☆」

「更に、俺たちの戦いはこれからだ!!的にすればうまくまとまるんじやね?」

あと、半沢に便乗すればPV数稼げるんじやね?というMAXコーヒーより甘い考えがありありと感じられる・・

「作品の反省はもう充分であろう☆

この最終話に求めるのはその先」

今更過去の反省などしてもどうしようもない。

たとえ今までの展開がどうしようもなく「クソ」でも終わりよければ全てよし。

そう。あの娘も言っていたではないか!

(運営に) 封印されるよりも早く(作品 자체を) けしてしまえばなんの問題も無いのだが  
な!・と

こうなれば、最終話やるべきことはただ1つ。

前後の関連性・脈絡・伏線全てを気にせず思うがままにいけばいい。

「卍☆解」

「えー!きみい、それはあかんよ・・」

マザーアース

「指し示せ!母なる地球儀」

「きみい、怒られても知らんでえ」

「大体の事態は理解した☆

さあ行こうか☆雑魚を倒しに」

「言うとくけど、うちらの海域周辺に敵はおらんよ」

「あまり強い言葉を吐くなよ龍☆驤。弱く見え・・・今なんて?」

「だーかーらーー・うちらの海域にはボスクラスの姫はおろか、駆逐イ級すら来とらんの」

「言われて辺りを確認すると、確かに海中には「イ級」どころか人つ子一人いない。

加えて言うならば、先程まで空一面に展開していた「タコヤキ」も既に姿を消してい  
た。

「ねえねえ☆これどう言うことかな？不知火」

「恐らく深海側から攻撃対象に含むまでもない基地と判断されたのでしょう。  
端的に言うと、この基地は敵から無視されました」

「あつそつかー・・・」

何だろうか。このなんとも言えない敗北感。

折角「正☆解」してパワーアップしたのにそれでも無視されるとは。  
ジャステイスの頬を何か冷たい一滴が伝っていくのを感じるよ☆  
「あ、あの司令官さん。泣かないでください」

「有り難う。吹☆雪」

「このあと、どうしましよう？」

ひとまずどこか交戦中の提督に合流しましようか？」

「そうだね☆

でもちよつと時間がほしいんだ。ジャステイスが立ち直る時間を」

深海側から無視されたジャス☆ティスをよそに各提督基地は続々と深海棲艦、そして  
姫達との交戦に突入する。

今ここに第1次横須賀鎮守府本土電撃強襲戦の火蓋が切つておとされた

# サイドストーリー 提督達の鎮守府生活 ヨンドイツチマンの鎮守府生活

どうもこんにちわ。タテです。

今回はあの艦隊コレクションとのコラボですよ。緊張してきたな。

いやー、でも本当に便利な世の中になりましたね。

たつた数百年でディスプレイ越しに眺めることしかできなかつた世界に、まさかボタンひとつで簡単に行けるようになるとは！

生きてる間にこんな日が来ようとは・・感慨深いですな。

早速、横須賀鎮守府に着任しましょう

――ヨンドイツチマン、2007年M―O優勝の僕らに突如としてコラボの話が舞い込んだ、この日のために仕事の合間を縫つて母港拡張に勤しんできた。戦力は十二分に整つていた。

「全然電話でないよ。なにやつてんだよ、あいつ」

鎮守府に着任して、まず始めに他提督情報を確認する。だが、相方の名前が見当たら  
ない。まだ、着任していない可能性も考え、コールするも応答無し。  
LVIから、始めるトミザカのため戦力拡大してきたのに肝心要のあいつがいないの  
だ。

「何かテンション下がつてきたな」

それを聞いた艦娘が一人心配そうに声をかけてくる

「元気ないよ提督、大丈夫？　あの、私、卵焼きいっぱい焼いたんだけど・・・食べりゆ  
？」

「食べりゆううう！」

瑞鳳の卵焼きか・・興奮してきたな！

瑞鳳の手作りというのが、一番興奮するが、卵焼きというチヨイスも素晴らしい。

卵、砂糖、牛乳と一見すれば高そうに見えるカロリーだが、加熱する事で熱に弱いカロ  
リーはなくなり、実質カロリーゼロである。

そこに、刻みネギ等の彩りを加えれば、美味しく・気軽に・ゼロカロリーで野菜まで  
補える。まさしく究極の栄養食品といえるだろう。

「提督どうして、あんなに落ち込んでたの？」

「7個めの卵焼きを搔き込むタテにそう尋ねる彼女。ポツリ。ポツリと原因を話していく。

「そうだったの。提督可哀想」

「いやいや、瑞鳳の卵焼きも食べれてテンション上がってきたよ」

「あ、そうだわ!!」

「?」

ふと、何かいいアイデアを思い付いたようだ。彼女は突如元気な声でそう叫ぶ

「提督」

「ん?」

「次に作る卵焼きは、S・M・O・L・Lなどのサイズにすりゆ?」

「それじやあ、スマルだな!!正しくはS・M・A・L・Lな」

「そんなー」

「気持ちだけは受けとつておくよ。ありがとな、瑞鳳」

必死にトミザカ役を演じようとする瑞鳳。そこに気持ちに感謝しつつ間宮レストランに移動するタテ。目指すは主食卵焼き後のデザート、間宮パフェだ。

甘味処間宮、補給艦間宮さんが、営む大衆レストランだ。いつものように引き戸を開け、なかに入る。

テレレレレレ♪テレレレ♪レレ♪

「いらっしゃいませ、いらっしゃいませ、いらっしゃいませ♪」

「間宮さん・・微妙に違う」

ファミ〇の入店音と共に、恐らくブツ〇オフ店員のマネをする間宮さん。これは、あれか。あのネタか。

「足下のメニューから、ご注文をお選びください♪」

「ちょっと、色々はしょりすぎだな!!とりあえず、間宮パフェ一つ」

「ピック〇ーガー千個ですか!」

「・・・業者か俺は」

一通り間宮さんの雑なネタぶりに付き合い、ようやくパフェにありつけた。全く今日はどうなつているんだ?

——遡ること10分前——

タテが出ていったことを確認した瑞鳳は偵察機「彩雲」を、間宮、阿武隈（結婚（仮））に向けて飛ばしていた。現在の提督を元気にさせるため自分達がトミザカ役を演じようと言う旨の内容と共に。

港を一望できる特等席に座り、しばし至福の時間を楽しむ。そんな、タテのもとに一人の艦娘が接近する。

「隣、座つてもいいですかあ？ 提督」

阿武隈改ニ・結婚（仮）。我がタテ司令部エースにして、3艦目の最後の艦娘である。我が司令部は少数精銳、瑞鳳・間宮・阿武隈基本この3艦以外の艦娘はいない。

建造当初は、阿武隈のボイスに眠れぬ夜が続いていたが、なれると不思議に違和感は感じない。むしろ今は、1日1回はこの娘の声を聞かないと落ち着かないまでになってしまった。

「お、いいぞ。座れ座れ！」

「チョットナニイツテルカワカラにや、あ～」

「・・なんで何言つてるか分からんんだよ」

咬んだことを指摘すると、絶対面倒臭い事になるのでするーしよう。

「提督、セリフ咬んだこと気付いてなーい？」

「気付いてない、気付いてない」

「本当？本当に？」

「うん。本当本当」

「やつたーー！」

「・・・まじか」

本気で、気付いてないと思つてゐる阿武隈。普通に自分で白状しておいてなお、タテの言葉を信じる彼女。やるやるとはきいていたがここまでとは・・

「で、今日はなんのようだ」

「提督今から、1—1攻略にいきましょう♪」

「今さら？」

「はい!!」

1—1海域、別名チユートリアル海域。

チユートリアルを開始した初期編成（初期選択艦十1艦）でもクリア可能なくらい楽

勝な難易度からついた名称である。

なぜ、今さら1—1なのか意図がわからず聞き返す

「今さらどうして?」

「最近、ずっとMVPを瑞鳳さんが、開幕爆撃で持つていちやうじやないですか?」

「そうだな」

「だから、阿武隈だけで1—1に出撃してMVPをとりまくるの!」

「ただの八つ当たりじゃねーか!!」

「提督! お願い、おねがい!!」

駄々つ子のように手足をばたつかせ泣きじやくる阿武隈、こうなつたら手がつけられない。食べかけのパフェから手を離し1—1海域へと出撃する。

——1—1海域——

ここでは、深海棲艦達がたまに来るビギナー艦娘達との戦闘兼指導役をかねた交流が日々行われている。

この海域の深海棲艦たちは非常に穏やかでおつとりした艦が多い、他海域のように艦娘を大破させるような荒くれものはいない。

各々が平和に慎ましく暮らしていた。

そんな平和な深海村に突然1艦の阿武隈が牙をむく

### 海域1週目

「皆さん、私の指示にしたがつてください。んうう… したがつてくださいい！」

「システム上仕方ないけど、お前一隻しかいないからな」

駆逐イ級（メーデーメーデー!!化け物が攻めてきたぞ）

駆逐口級（逃げろー殺されるー）

### 海域10週目

「阿武隈、ご期待に応えます！」

「もう十分応えたから帰ろつか!!」

駆逐イ級 「何だよ！先制雷撃つて」

駆逐口級 「overkillやめちくりー」

### 海域15週目

「こんなあたしでもやればできる！ ねつ提督、ホントにありがとう！」

—

驅逐イ級  
」

驅逐級

結局阿武隈が満足して、母港に帰港したのは20周回目を越えた辺りであつた。疲労困憊したタテに無邪気微笑む阿武隈、今後の展開に一抹の不安を抱えるしかなかつた。

はい、ということで無事第1話が終了致しました。

この作品のコンセプトは、ジャス☆ティイス以外の提督の艦隊生活に焦点を当てること。そして、ラストそれら提督の点と点を繋げ本編に導入していくらしいですがそんな事が作者の技量で、できるのか？

空中分解・爆発四散の臭いがブンブンすることには目を瞑り次回予告といきましよ  
う。

それでは、雷さんお願ひします。

雷よ！かみなりじやないわ！そのとこもよろしく頼むわねっ！

2話の主役は私。  
・・なんだけど、私の司令官ちょっと変わってるの。

だつて、どんなときでも「OK牧場」しか言わないのよー。  
OKつていつてるわりには全然理解してくれないし、私がしつかり支えてあげな  
きや。

次回第2話 魔法の言葉OK牧場

そうそう。もーっと私に頼つていいのよ

# 魔法の言葉 O.K 牧場

——貴方は知つてゐるだらうか？——

かつて日本で、いやアジア人として初めてWKCライト級チャンピオンを獲得し、5度の防衛戦に勝利した男の名を。

——貴方は知つてゐるだらうか？——

その男の芸名が、欠けているものをつけさせるために名付けられたことを

あの伝説の男が艦これに降臨する。

8月某日、横須賀鎮守府は色めき立つていた。

何故なら、あの伝説のボクサーが艦これとのコラボをO.Kしたからである。コラボ前日、てんやわんやのお祭り騒ぎで準備をはじめる大本営。

チュートリアルに不備はないか、バグの有無、羅針盤の設定変更等快適にプレイしてもらうための準備はほぼ完成した。そして最後にして最大の課題に取りかかる。その課題とは

秘書艦をどうするか？である。

この大役に適任と言えば、候補は吹雪・電のどちらかであろう。  
他3艦は少し癖が強い。

だが、困つたことに彼女達はアニメの収録中であつた。そこで白羽の矢が立つたのが  
収録を終えた暁型3番艦「雷」であつた。

初期5艦には入っていない彼女だが、そこは大本營の力でどうとでもなる。  
早速交渉に赴くスタッフ（妖精）さん。話はトントン拍子に進んでいった。

―――――そしてコラボ当日―――――

「どんな人なのかなしら？」

突然の大役に二つ返事で引き受けてしまった雷。彼女にはその男がどんな人物か全  
くわからない。

彼の全盛期は雷が艦として存在していた時も、そして艦娘として生まれ変わった時も  
知らない。いつたいどんな人物なのだろうか、不安、緊張、対面するまでの時間が永遠  
に感じられた。

「お、君がかみなりちゃんか。宜しくね」

「雷よ！かみなりじやないわ！そこのとこもよろしく頼むわねっ！」

「いなずまちゃんかOK牧場！」

「いかづちよ。い・か・づ・ち!!」

「OK牧場」

雷が感じたその男の第一印象は、人当たりが良さそうなお爺ちゃん。であつた。

本当にこの人が伝説のボクサーなのだろうか？まさか人違い？

そんな不安を胸に抱きつつもチュートリアルが開始される

「指揮官まずは建造を選んで頂戴」

「OK牧場」

「指揮官！それは、出撃よ。戻るを選択して」

「OK牧場！」

「ちょっと、ステージ選択場面に移動したじゃない。」

「よくわからん」

「しきかーん!!」

まさかの単艦2—4出撃。

チューートリアルでは絶対に選択できないステージの出撃。LV1の雷にとつて初戦大破は目に見えていた。

しかし、雷はここで伝説の男の片鱗を目の当たりにするとなる。

2—4 1 戦目B マス

「おらあ！」

伝説の右ストレートが重巡口級にクリティカルヒット。

戦闘：結果完全勝利

「指揮官ここで戻りましょう。退却よ退却ボタンを選択するの」

「OK牧場」

「・・・それは進撃じゃない！」

G マス

「指揮官アイテムゲットよ！」

「うん、うまい」

「指揮官それバナナじゃないわよ」

「OK牧場」

Hマス

「よかつた何もおこらなかつたわ。」

「Ｚｚｚｚ」

「指揮官起きてまだ戦闘海域よ」

Lマス

「指揮官避けて！」

空母ヲ級の先制爆撃が伝説の男に襲いかかる。

辺り一面が爆撃の硝煙により黒一色で覆われた。

「指揮官・・・」

雷の頭に浮かぶ轟沈の2文字。

「指揮かーん!!」

「OK牧場」

「すごいわ。こんな人間がいるなんて」

空母ヲ級の爆撃を受けても微塵のダメージすら受けていなかつた。さすが伝説の男である。

そのまま、ボディブローを決め、一隻目のヲ級を撃破。

抑えていた。

そして

「OK牧場」

「わかつたわ司令官。行つきますよー！」

ボスマス

2—4 最大の難所 戰艦ル級 flagship × 3

勝負は一瞬にして決まった。1隻目の戦艦ル級の船体を貫いた伝説の右、そのままソードマスター・ヤマ○をリスペクトさせる戦艦3隻雀刺し。残る取り巻きもKOし見事海域クリアを達成した。

——執務室——

「司令官お疲れ様」

「OK牧場」

「司令官つて本当にすごいのね。素手で深海棲艦を倒すなんてびっくりしちゃった」

「OK牧場」

「どうして、そんなに謙遜するの？ 司令官。」

「OK牧場」

「スッゴーい。あんなのボクサーにとつては当たり前なんだ。」

「OK牧場」

「もつともつと武勇伝を雷に聞かせて」

「OK牧場」

阿吽の呼吸、この1日司令官と行動をした雷にとつて、多くを語らずとも全て理解することができた。

この、対応力と適応力、そして包容力こそが今回の初期艦として選抜された大きな理由かもしれない。

「OK牧場」

「え、今日はもう帰っちゃうの？」

「OK牧場」

「そんな、明日もまた来てくれるよね。司令官?」

「いいとも！」

「司令官駄、目じやない！そこはOK牧場でしょ」

2人の艦これ生活はまだまだ始まつたばかりである

――――次回予告――――

あなたは知っているだろうか？

この横須賀鎮守府に「対潜の鬼」と呼ばれる提督が存在することを。  
彼の伝説はとどまるところを知らない。

- ・1—5 鎮守府近海ステージ 戦艦攻略
- ・潜水艦艦娘は彼を恐れ絶対ドロップされない
- ・五十鈴1隻「南方強襲偵察」クリア

等々数多の伝説をもつ。

そんな提督と五十鈴の物語

次回「戦場のピアニスト」

## 戦場のピアニスト

「ここ最近、横須賀鎮守府でまことしやかにある伝説が囁かれるようになった。その内容は以下のようなものである。

「戦場のピアニスト」が舞い降りた

この眉唾に近い伝説の真偽を確認するため、パートナー青葉と共に調査を開始する。運よく、実際にその姿を目撃した提督を発見し、インタビューに成功した。目撃者はH男爵の相方Kぐち君、1—5海域で戦場のピアニストに出会い、彼の神憑りてきな強さを目の当たりにしこう語る。

「彼を語る上で多くの言葉は要りません。一言だけ、対潜戦のスペシャリストそれだけです」

これだけでは、何もわからない。更に詳しい話を取材するべくインタビューを試みるも「Kぐちカツター」という訳のわからない言葉を残し立ち去ってしまった。

取材班は更に詳しい情報を集めるため、鎮守府在住の提督達に片つ端から取材を申し込むローラー作戦を実行することにした。

しかし・・・

「有力な目撃情報はなし、か・・・」

こちらが取材した提督達は全て空振りだつた。目撃情報はおろか、「戦場のピアニスト」この単語さえ知つてゐる者がいなかつたのである。この伝説はガセネタか?

そんな、考えを巡らせてゐる間に取材を終えた青葉の声が聞こえてきた。

「こつちは、空振りだ。そつちはどうだつた?」

「司令官、青葉きいちやいました・・・」

どうやら、ヒットがあつたらしい。さすが取材において右に出るものはいない青葉だ。

「よくやつた!で、その情報は?」

「気になります?やつぱり気になつちやいますかー?」

「勿体ぶらずに早く教える」

「あ、頭を小突かないでください。やつぱり気になつちやいますよね?実は・・・」

取材においては優秀だが、この焦らし癖と盗撮だけはいただけない。これさえなれば完璧なのだが

「実はワインしか飲まないと思つてゐたボーラさん、お酒ならウイスキー・日本酒・

ビール何でも行けるみたいなんです!!これはとんでもないスクープですね」

「・・・・

「冗談です。今のは冗談ですから、そんなにさわらないでください。折角セットした髪がく」

青葉による取材でわかつたことは以下の通りであつた

- ・目撃情報は全て1—5潜水艦海域
- ・その男は全身を黒一色でコーディネートしており、常にサングラスを着用している
- ・全聾でありながら、読心術で潜水艦のスクリュー音を探知できる
- ・戦艦で潜水艦を撃沈する

青葉が集めた情報を整理すればするほど、この伝説が眉唾物の可能性がどんどん高まつてくる。

第1に、なぜ1—5にしか出現しないのか?

艦これには基本、ステージをクリアし続けなければ新しい艦娘はおろかレベリングさえままならない。自分達のような特殊な事情でもない限り、海域攻略放棄は愚の骨頂である。

以下2つの情報も色々と突っ込みたいが我慢しよう。

それよりも一番の疑問は・・

「戦艦で潜水艦は（システム上）攻撃できないだろ」

「司令官、実際の海戦ではいくつか実績があるみたいですよ」

潜水艦は潜航（海中深くに潜ること）が基本だ。撃沈する場合はレーダー探知 o r シュノーケル走行を目視で確認。

その後小回りの聞く駆逐艦による潜水艦の潜航予測深度への爆雷が正攻法である。これを戦艦で行おうとした場合、浮上場所及び浮上タイミングをピンポイントで予測し浮上したところをドンピシャのタイミングで砲撃を行わなければならない。実際の海戦においても戦艦による潜水艦の撃沈はラッキーパンチが決まつただけの運ゲーによる実績しかないのだ。

それを狙つてできるとしたらそれは最早、人ではない。

ともかくにも、先ずは1—5へと出撃することにするが・・・

「青葉つかぬことを聞くけど、うちの鎮守府駆逐艦いたつけ？」「居ません。というより、戦力は青葉1艦だけですね!!」

「よし、とりあえず戦闘は極力さけよっか」

1—5 海域ここは別名「58養殖場」と呼ばれている。

名称理由は勿論敵部隊が潜水艦のみたまにドロップで58がドロップするため、オリヨクル要員補充のため日々提督達が駆逐のレベリングついでに58を乱獲することからこの名前がつけられた（適当）

早速、青葉と共に渦中の人物を探すも姿か形は現れない。それどころか、いつも盛況な狩場が一人つ子一人いなかつた。その理由は大体察しがつく。

大本営からある伝達が達された。その内容は、最近深海勢達の活動が類を見ないほどに活発化してきている。各人大規模攻撃に備え準備されたしと言う旨だつた。

それからというもの、この海域は本当にゴースト海域となつた。全盛期は58の乱獲により一時期は大本営の天然記念物として指定されその姿を見るものはいなくなつていた時期もあつた。しかし、今ではあちらこちらに58の姿を確認でき中には此方になんの警戒心もなく近寄つてくる艦までいる始末である。

こうなつてはもう、野良艦娘として終わりであろう。

「海の中からこんにちはー♪」

「うわあー、司令官この子うちで飼いませんか？とつともなついてきますよ♪」

「だめだ。うちに余計な艦娘を飼う余裕はない」

「そんなー」

そんな、無駄話をしつつひたすらに探索を続けるもやはり空振りだった。

今回は諦めまた出直そうと帰り支度をしていたそのとき、この海域で絶対に耳にする  
ことがない主砲の発射音を耳にした。

「今のは聞こえたか？」

「はい！青葉見ちやいましたあれは、46cm三連装砲の発射音です」

早速主砲が聞こえた方向に、移動する。

そして現場に到着し我々は目撃してしまった。戦艦大和が主砲をぶっぱなし当たり  
前のように潜水艦を撃沈している光景を

「司令官……」

「ああ……」

まさに、人間のそれを越えていた。全身を黒のスーツ着固めたその男は敵潜水艦の深  
度・距離・方角そして浮上予定時刻をピンポイントで大和に伝えていた。そしてその浮  
上予定ポイントに誘導されたよう敵潜水艦が浮上してくるのだ。

しばらくその光景に目を奪われてしまつた。そして、我に帰つたそのときには最早あ  
の男の姿は煙のよう消えてしまつていた。

「司令官!!あの人達いなくなつちゃいました」

「……」

かくして、あの眉唾物の伝説は本当だつた。この遭遇から何度となく1—5海域に繰り出すも再び彼らとの解析を待ち望むも全て空振りに終わつてしまつていた。不本意ながらこれ以上の真相解明は今のところ進んでいない。誠に消化不良ではあるが今回の調査でわかつたことをここに記し、書記として記して終わりとする。

# 鉄の部屋

深海棲艦との最終決戦に備え大本営周辺へ精銳提督達の配備を終了し万全の状態で迎え撃つ用意が整つた。しかし、ここで無情なる一報を本部は知ることとなる。

の大御所、アイアンレディと名高い「鉄娘」が提督として着任するのだ。

普段の大本営ならば、このまたとない一報に歓喜したであろう。しかし、現在臨戦状態にある本部にとつてはこの知らせは悪夢でしかなかつた。

今までのコラボ提督であれば、例え自身が大☆破しても笑つて許してくれるであろう。

だが、今回はそう簡単にいかない。

いや、本人は恐らく「あらー」の一言で済ませてくれる確率が高いであろう。しかし、お茶の間はそれで許してもらえない。

「鉄娘さんを大☆破せるとは、けしからん!!」

という年配者のお叱り電突、メール爆撃は必須。やもすれば、謎の力で消されてしまふ（物理）可能性も否定できない。

また、提督として着任するだけなら適当に1—1海域にビックセブンを配備させて満

足してもらう手も使える。だが、やはりと言えばいいのか残念ながらといえればいいのか、本人は艦娘との対談を希望していた。

こうなると事態はとても厄介になる。なぜなら深海勢の進行を防ぎつつ収録現場の防衛も同時に使う必要があり、戦力が2つに分断されてしまう。収録現場を大本営作戦室に設置して徹底的に死守するという作戦もやぶさかではないが、やはり万が一が起こる可能性は否定できない。

そこで、大本営作戦本部は苦肉の策として大本営を最前線に配備し敵の攻撃を集中させると同時に元大本営を収録現場に変更。さらに、収録現場の防衛戦力として、全戦力の7割を配備。残りの3割で最前線を支える正に背水の陣とも言える作戦

その名も「鉄の部屋」作戦を提案、同日正午大本営の承諾を得て提督達に発布されることとなつた。

更に、あのお茶の間の女王「鉄娘」との対談に相応しい艦娘として第一次・第二次両大戦を戦い抜き、その戦歴から「傷だらけの不沈艦」「オールド・レディ」の異名を持つイギリスきつての、いや世界随一の殊勲艦である、海戦の女王「Warspite」投入を決定した。

そして迎えたコラボ当日、あの特徴的なヘアスタイルと漆黒のドレスに身を包んだお茶の間の女王がスタジオに降臨した。はりつめた現場の雰囲気のなか、お茶の間の女王

と海戦の女王2人の女王が解析を遂げる。

「Queen Elizabeth Class Battleship 二番艦、W  
ar spiteです。Admiralよろしくお願ひしますね。」

「まあーーご丁寧に、有り難う御座います。鉄娘と申しますよろしくお願ひ致します」

先程の空気とは一変和やかな雰囲気のもと収録が始まる。

そして、それと同時刻ついに深海棲艦の一斉攻撃が開始された。

提督勢VS深海棲艦との最終決戦が今、幕を開ける